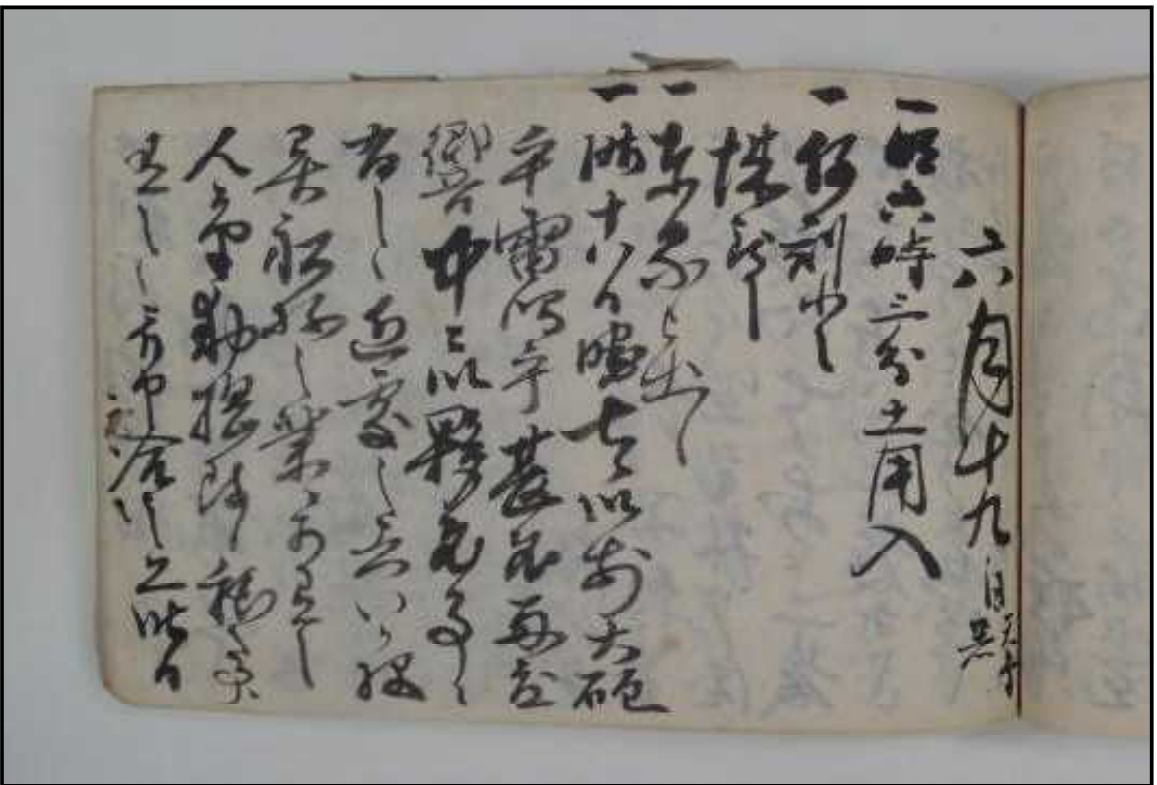
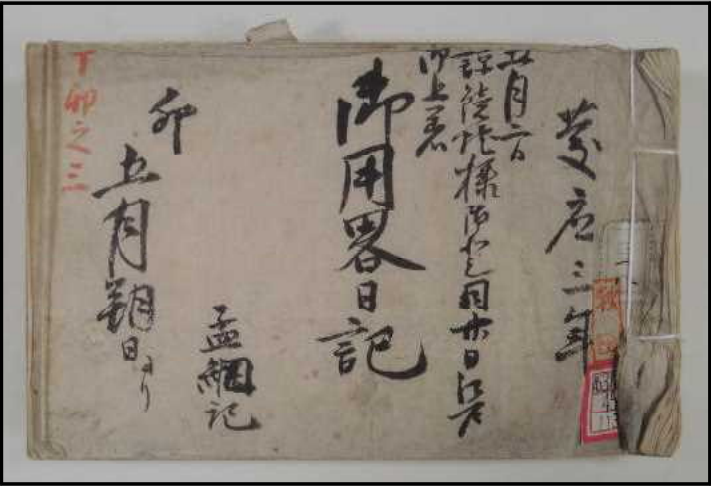


平成二十五年七月十三日（土）
 の初級編では、「宇都宮孟綱日記
 一一三」（資料番号 AS312-
 45-113）等を教材に使用し
 ました。



六月十九日 暑気
 一 明六時三分土用入
 一例刻登
 城致候
 一 東家被出候
 一 昨十八日暁七ツ以前大砲
 平雷鳴乎甚敷両度
 響中々以夥敷事ニ
 有之候近処之者いか様
 異船杯之業ニ可有之
 人氣動揺致候程之事ニ
 有之候ニ付申合之上昨日…

未明の轟音

「宇都宮孟綱日記」より

宇都宮孟綱（一八〇一〜一八八八）は、幕末期秋田藩の家老です。彼の二十七年間に及ぶ日記は、幕末期の秋田藩を知る貴重な資料となっています。

慶応三年（一八六七）のある朝、城下に轟音が響きわたります。雷鳴か？ はたまた異国船の仕業か？ 続きは閲覧室書架の翻刻本『宇都宮孟綱日記』第八巻でご確認ください！